

1. 評価報告概要表

作成日平成20年12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4071601712
法人名	有限会社 フォレスト久留米
事業所名	グループホーム いちちょうの杜 津福
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市津福今町610-7 (電話)0942-39-1013

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年12月19日	評価確定日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(20年12月4日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	10人, 非常勤 5人, 常勤換算 12人

(2)建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4)利用者の概要(12月4日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	齋藤医院 すみたクリニック (医)健歯会
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中に位置したグループホームで、周りの建物とも調和しており、違和感を感じることはない。近所には保育園があり園児との交流が行われていたり地域の清掃活動に参加したりする等、地域との関わり先積極的に行っている。事業所の取り組みとして、学習療法には特に力をいれて取り組んでいるところである。公文を取り入れており利用者の認知症状の改善を図っている。平成15年に開設された事業所であり利用者も年々重度化しつつあるが、医療との連携が密に行われており胃ろうや吸引が必要になってもホームでの生活を継続することが出来ている。また看取りについても、希望があれば対応するようにしている。利用者、家族共に安心して毎日の生活を送ることが出来るグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善項目については、みんなで検討話し合いを行い、改善できるものや必要と思うものについては、積極的に取り組みを行い改善を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	まず職員がそれぞれ思っていることを自己評価表に記入し、それを集めて、その内容を管理者が中心となりまとめて作り上げた。評価を行うことにより新たな発見と改善点が明確になり、今までの業務を振り返る機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2~3ヶ月に1回、地域の理事や民生委員、地域包括支援センターの職員、利用者家族の代表等に参加を呼びかけて開催している。会議ではホームの運営状況や行事等を報告したり逆に地域の情報提供をしてもらったりしながら、それぞれの意見や感想を出し合う場としている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	行事ごとの後に家族に集まってもらい、ホームに対する希望や要望を出してもらう機会としているが、特に家族から不満や苦情は出ていない状況である。直接言いにくいこともあるかも知れないと考え、玄関には意見箱等も設置して対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会や老人会に加入しており利用者と一緒に清掃活動に参加したり体育部の役員としての活動も行っている。また近所の保育園の行事に呼んでもらったり逆にホームの夏祭りやクリスマス会等の行事に来てもらったりしながら、地域との交流を深めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	地域の中で、利用者がその人らしく生活できることを目指し、利用者の尊厳を大切にしていこうと盛り込んだ理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議やミーティングの時に、理念についての確認をするようにしており、理念の共有は出来ている。また、玄関や事務所の中にも掲示しており、いつでも見れるようにしている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会に加入しており、利用者と一緒に清掃活動に参加したり、体育部の役員としての活動も行っている。また近所の保育園の行事等に呼んでもらったり、逆にホームの行事(夏祭りやクリスマス会)等に来てもらったりしながら、地域との交流を深めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず職員がそれぞれ思っていることを自己評価票に記入し、それを集めて、その内容を管理者が中心となりまとめて作り上げた。昨年の外部評価における改善点についても、話し合いをした上で改善できるものについては取り組みを行った。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回、地域の理事や民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族の代表等に参加を呼びかけて開催している。会議ではホームの運営状況や行事等を報告したり、逆に地域の情報提供をしてもらったりしながら、それぞれの意見や感想を出し合う場としている。		

グループホーム いちよの杜津福

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所協議会のグループホーム部会の事務局として活動しており、市との連携は密に取れている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修で制度について受講した職員がいるので、その内容をホーム内で伝達するようにしている。また、実際に成年後見制度を利用している利用者もいる状況である。パンフレット等も準備もなされている。しかし、日常生活自立支援事業についての理解は今のところ薄いようである。	○	勉強会等を開催して、さらに制度についての知識を深めていくことが望まれる。事業所協議会での勉強会等の開催も検討していくとよいのではないだろうか。
4. 理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況については、それぞれの利用者の担当をしている職員から、モニタリングに基づいた内容にて電話で報告するようにしている。また、ホーム便りを年4回作成し、郵送も行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の後に家族に集ってもらい、ホームに対する希望や要望を出してもらう機会としているが、特に家族から不満や苦情は出ていない状況である。直接言いにくいこともあるかもしれないと考え、玄関には意見箱等も設置して対応している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職時には1ヶ月前には申し出てもらうようしており、もしも離職等があった場合も、普段から全職員が密に情報交換を行い、誰でも対応出来る体制を取っているため、引継ぎで困ることはない。そのため、利用者のダメージもそれ程大きくなることはない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人の介護に対する思いを重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。また、資格取得等、スキルアップを図っていくことを積極的に勧めるようにしている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育については、ビデオを用いて研修を行ったが、その内容について、職員がしっかりと把握しているかどうかは疑問である。</p>	○	<p>それぞれの職員が人権に対する意識を高めていくためにも、定期的に勉強会を開催していくことを始め、日々の業務の中でも意識付け等を行っていくことが求められる。</p>
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には積極的に参加を促している。職員が交代で参加し、ホーム内で伝達講習を行い、情報の共有を図っている。また内部研修についても来年度は基礎の研修計画を作成し、他事業所にも声をかけつつ、それに沿った形で定期的開催していく予定である。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市内で立ち上げている、事業所協議会のグループホーム部会に参加しており(事務局を担当している)、定期的開催されている勉強会等にも積極的に参加している。また、夏祭りやもちつきを他のホームと一緒に開催する等、ホーム間で相互訪問をする機会も持っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所をしてもらったり事前に自宅や病院に面接に行ったりまた、事業所に見学に来てもらう等して、不安の軽減に努めている。本人のペースに合わせて、様子を見ながら、場の雰囲気に馴染んでもらえるような働きかけを行っている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>本人本位ということとを大事にし、何にでも手を出すのではなく、出来ることは行ってもらうたり逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>それぞれの性格や生活層等から、本人がどのようにしたいのか、どのような思いを持っているのか等を探りながら、アプローチを行っている。意向の把握が困難な利用者については、家族にも話を聞きながら、本人の意向の把握に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当制をとっているため、それぞれの担当者で計画作成担当者にてケアプラン会議を開催した上で、ケアプランを作成している。家族の意見についても、担当者が事前に電話や面会時に聞くようにしており、それらを反映させたケアプランを作成しているが、作成後の家族等の同意欄に同意日がないものが見受けられた。</p>	○	<p>作成した計画書は確実に署名をしてもらい日付を記載することが求められる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって、現状、どのようなことが必要なのかを考えながら、状況に合わせて支援している。受診の介助や買い物等、臨機応変に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診をいっている利用者もいれば、協力医の受診を希望している利用者もいる。いずれも利用者と家族の意見を尊重した上で支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについての指針を作成しており、事前に説明を行い、同意の記名・捺印ももらっている。実際にその状態になられた場合、かかりつけ医をはじめ、家族とも十分話し合いを行いながら連携を取りつつ、対応している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また記録類についても事務所内の扉がついた棚に直しており、外から見えないように管理している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、決して無理強いはいしないように対応している。入浴や食事の時間等もなるべくそれぞれのペースに合わせて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂りながら、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいた。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとに曜日は決めているが、時間帯については、なるべく利用者の希望に沿って入浴できるようにしている。中には入浴を拒否する利用者もいるが、無理強いせず、言葉かけでうまく誘導できるように心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が持っている力を活かして、洗濯物たたみや、畑仕事等、無理強いすることなく、自然にそれぞれの役割をもってもらえるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望を聞きながら、散歩や買物等に出掛けしている。また時には外食やドライブにも出掛けることもあり、積極的に戸外にでる機会を持っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけることなく、自由に出入りできるようにしている。利用者の状態に合わせて、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を行っているが、夜間想定による訓練はまだ行っていない。	○	職員だけの誘導の限界を踏まえて(特に夜間帯)地域の人々や他の事業所の協力が実際に得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行う等の取り組みが必要ではないだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉と魚を交互に使うようにして、栄養のバランスを考えた献立を立てるようにしている。時々、利用者の食べたいもののリクエストも取り入れている。また、食事摂取量や水分摂取量はチェックするようにしており一人ひとりの状態の把握に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはソファやテーブル、装飾品等、一般の家庭にあるようなもので揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具、人によってはピアノ等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		